

春告草

第99号 平成30年3月14日 進路指導部発行

「大学入学共通テスト」で変わる大学入試 センター試験からの変更点と課題

大学入試センター試験に変わる「大学入学共通テスト」が、2021年1月から実施される。3年後だから、対象は現在の中学3年生以下だ。4年生、5年生は新テストに関わらないよう、最善を尽くしてもらいたいが、新テストを意識した問題が出題される傾向にあることは、春告草第94号で伝えた通りである。4月からは現3年生も後期課程に進級するので、今後は随時紙面で関連の情報を発信する予定である。今回は、現行テストと新テストとの違いなど、現時点で分かっていることをレポートする。

新しいテスト「大学入学共通テスト」

平成2年度から実施されてきたセンター試験は2019年度(現4年生受験年度)の実施を最後に廃止され、これに代わり「大学入学共通テスト」が2020年度からスタートする。

昨年7月、文部科学省から「大学入学共通テスト実施方針」が出された。これまでのセンター試験同様、実施は1月中旬の2日間であるが、本文中には「検討を進める」といった表現が随所にみられ、詳細は議論・検討中である。公表されている内容は変更される可能性が十分にあるので、今後の議論の推移を見守っていく必要はある。

まず現在のセンター試験からの大きな変更点として、これまでのセンター試験にはなかった「記述式問題」の導入と、英語について「4技能(読む・聞く・話す・書く)」を評価することがあげられる。

また、共通テストの導入にあたっては、「知識・技能」だけではなく、大学入学段階で求められる「思考力・判断力・表現力」を中心に評価するという考えがベースにあり、現在、そうしたテストとなるよう出題内容について検討が進められている。一般に「思考力・判断力・表現力」を中心に評価する問題を多く出題すると、テストの難易度は上がる傾向にあるので、現在のセンター試験と比較すると難易度は高くなることが考えられる。

国語と数学で記述式問題を出題

現行のセンター試験はすべてマーク式で実施されているが、共通テストでは一部で記述式問題が導入される。当初は国語と数学で実施され、2024年度以降からは地理歴史、公民や理科にも広げることが検討されている。

国語は、80～120字程度で答える問題を含む小問3問程度が、古文・漢文を除く範囲から出題される。現行は現代文(小説、評論)、古文、漢文の大問4題構成だが、そこに記述の大問1題が加わるので、試験時間は現行の80分から20分延長され、100分程度になる。

記述については、設問の中で一定の条件を設定する「条件付き記述式問題」が検討されている。

大学入試センターのホームページには、新たに実施される国語と数学の記述式問題のモデル問題が公表されているが(裏面囲み記事参照)、国語のモデル問題の1つは、架空の市の「景観保護ガイドライン」を題材にした複数の文章を読み設問に答えるというものだった。設問の中で、①35字以内、②修正すべき部分、③修正の仕方 という3つの条件が設定されていて、それらが解答の中に盛り込まれているか、否かが評価のポイントになる。

数学は、「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」受験者を対象に、「数学Ⅰ」の範囲から出題される。国語と異なり、マーク式問題と記述式問題が混在して出題されるので、大問数は3題で現行と変わりはない。ただし、試験時間は60分から10分延長され、70分程度になる。

数学のモデル問題は、2次関数の応用問題と、公園の銅像が見えやすい位置や角度を三角比などを用いて算出するという内容だった。思考力や表現力を問うというテストの方向性や、学んだことを実生活に即した場面で活用できるかを意識した内容である。表1に現行のセンター試験と共通テストとの相違点をまとめた。

英語は民間試験活用を基本に

英語は実施形態を含めて大きく変わる。民間の資格・検定試験を活用して4技能「読む・聞く・話す・書く」を評価するものになる。活用できる民間の資格・検定試験は、現在確定していないが、受験者は認定された試験の中から、高校3年生以降の4月～12月の間の2回までの試験結果を活用する。具体的には、活用する資格・検定試験出願時に、大学入試センターへの成績を送付することを実施団体に依頼し、その成績とCEFR(※)に対応した段階別評価(表2参照)が大学入試センターへ送付される仕組みだ。各大学への成績提供のため、大学入試センター内に「大学入試成績提供システム(仮称)」を構築するという。(図1参照)

資格・検定試験の成績の有効期限や、既卒者の対応などは現在未定だ。

なお、2023年度までは大学入試センターが実施する共通テストでも英語を実施する。資格・検定試験と共通テストの英語のいずれか、または双方を活用するのは大学の判断に委ねられる(※)。

※CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠/Common European Framework of Reference for Languages)外国語の学習・教授・評価(Learning Teaching Assessment)のための国際指標

※東京大学は可否判定には用いないことを発表した。(3月10日)詳細は次号に関連記事を掲載予定である。

表1 「大学入学共通テスト」の概要

名称	大学入試センター試験	大学入学共通テスト
実施年度	～2019年度	2020年度～
出題教科・科目	6教科30科目	センター試験と同じ ※2024年度以降は簡素化を検討
出題形式	マークシート方式	国語、数学で記述式を導入 ※2024年度以降は地歴、公民、理科も検討 【国語】・80字～120字程度の問題を含む3問程度 ・出題範囲は「国語総合」(古漢を除く) ・マークシート問題とは別の大問 ・試験時間は100分に延長 【数学】・「数I」「数I・数A」で出題 ・数Iの範囲を3問程度 ・マークシート問題と混在の出題 ・試験時間は70分に延長
英語	2技能(Reading、Listening)を評価	4技能を評価、民間の試験を活用 民間試験の受験は高3の4～12月に2回まで 2023年度までは民間試験と共通テストの英語を併用 (大学が利用方法を指定)
成績結果・提供方法	・各科目1点刻みで採点し、合計点を提供 ・国語は「近代以降の文章」「古文」「漢文」の3分野を別々に成績提供	・マーク部分は現行より詳細情報(設問・領域・分野ごとの成績、段階別表示などを検討)を提供予定 ・国語は一括提供を検討 ・英語はCEFRの段階別表示 ・記述式は段階別評価(3～5段階)

表2 主な英語の資格・認定試験とCEFRとの対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEIC/TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2630-3400)	1400		7.0-8.0	400	800	95-120	1305-1390 L&R 945～ S&W 360～
B2	FCE (160-179)	準1級 (2304-3000)	1250-1399	980 L&R&W 810	5.5-6.5	334-399	600-795	72-94	1095-1300 L&R 785～ S&W 310～
B1	PET (140-159)	2級 (1980-2600)	1000-1249	815-979 L&R&W 675-809	4.0-5.0	226-333	420-595	42-71	790-1090 L&R 550～ S&W 240～
A2	KET (120-139)	準2級 (1284-1800)	700-999	565-814 L&R&W 485-674	3.0	150-225	235-415		385-785 L&R 225～ S&W 160～
A1		3級-5級 (419-1650)	-699	-564 L&R&W -484	2.0				200-380 L&R 120～ S&W 80～

共通テストの課題

記述式問題の導入で受験生が気になるのは、「採点のばらつき」だろう。採点者による点数のばらつきは容易に想像が付き、また一人の採点者についても、最初と最後の答案では基準がずれていくことも懸念される。この問題を克服する一つの方法が、先述の「条件付き記述式問題」だ。今後、実施に向けて整備されていこうが、受験者も記述式問題の採点ポイントを押さえた、「解答の作法」を身につけていくことが重要となる。現在でも、私立大も含めて個別試験で記述式問題を取り入れている入試は多い。思考力・判断力・表現力が評価されていることを意識して答案作成の練習をするとうまいだろう。

また、民間業者も活用し、短期間で採点することが実施方針にも盛り込まれているが、大学入試センターから各大学への成績提供は現状(※)より1週間程度遅れることになるという(※2017年度入試で、私大への成績提供は1月31日、国公立大へは2月2日)。

次に、英語資格・検定試験活用では、受験者の検定料負担もある。大学入試センターでは、検定料の減免や、資格・検定試験の受験者は共通テストの受験料を減免するなどの方策を検討するという。

受験料でいえば、現在は1万8千円(3科目以上受験)のところ、値上がりするだろうという。

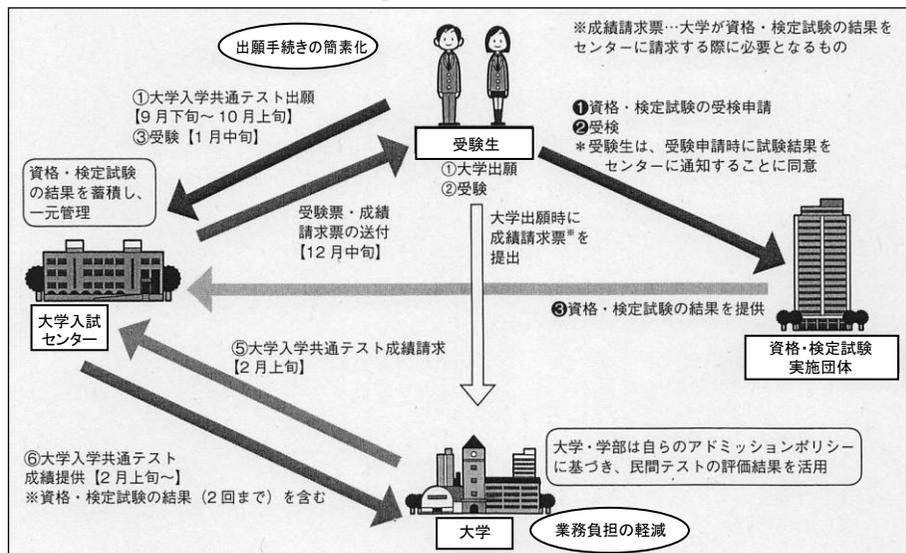
マークシート式問題の改革

記述式問題導入と英語4技能評価試験ばかりが注目されているが、マークシート式問題は共通テストになっても継続される。思考力・判断力・表現力をより重視するというのが、共通テスト導入のベースにあるので、「思考力・判断力・表現力を一層重視した作問への見直し」が図られる。実施方針には、次の各点に留意して作問の工夫・改善に努めると記されている。

- ・出題者が問題文で示した流れに沿って解答するだけでなく、問題解決のプロセスを自ら選択しながら解答する部分が含まれるようにする
- ・複数のテキストや資料を提示し、必要な情報を組み合わせ思考・判断させる
- ・分野の異なる複数の文章の深い内容を比較検討させる
- ・学んだ内容を日常生活と結び付けて考えさせる
- ・他の教科・科目や社会との関りを意識した内容を取り入れる
- ・正解が一つに限られない問題とする
- ・選択式でありながら複数の段階にわたる判断を要する問題とする
- ・正解を選択肢の中から選ばせるのではなく必要な数値や記号等をマークさせる

昨年、今年のセンター試験の問題を見て分かるように、上記の各点を意識した問題が出題されている傾向にある。来年、再来年のセンター試験準備にも、十分に対策を立てて臨んでもらいたい。

図1 「大学入試成績提供システム(仮称)」の活用イメージ



新テストを視野に入れた問題は出題される傾向か？

新テスト導入後も継続するマークシート式問題について、思考力・判断力・表現力を一層重視した作問への見直しを図られると述べたが、今年のセンター試験でも、そういった入試改革の方向性を踏まえた出題がある。専門外の教科で、的外れな指摘の可能性や見落としもあるかと思うが、これから準備を進める5年生、4年生は、こういった新しい傾向を感じ取って勉強を進めると良いだろう。

国語 第1問(評論)では、さまざまな具体例を挙げながら、現実をデザインするという人間の本质について論じた文章が出題された。本文には2つの図がついていて、その図に関連して、生徒の話合いが紹介され、そのうちの一人の発言が空欄補充問題になっていた。

日本史B 第1問 会話形式の問題は3年ぶりというから新傾向ではないが、複数の時代をまたぐ問題を中心とし、古代～近代を総合的に問う出題形式や、文字・図版の読み取り問題は増えている。

地理B 第5問 センターでムーミンが出たということで話題になったが、宿題レポートという形式や資料としてアニメを取り上げているのが新しい。学んだ内容を日常生活と結び付けて考えさせるということか。

地学基礎 第2問 寺田寅彦の随筆「茶碗の湯」を題材として、身近な自然現象から大気分野を中心とする地学の知識を考察させる問題。これも日常生活と結び付けた出題。第3問は会話形式で、昨年に引き続く出題。

●モデル問題例から

モデル問題例4 (数学) 平面図形に関する内容。2人の生徒がコンピュータを使って図形の性質を調べていくという場面設定である。会話形式の問題が数学で出題されるのは非常に珍しい。数学におけるICTの活用を想定し、生徒がコンピュータを用いて図形の考察を行う場面の設定は、条件を一部変更した場合について考察し、問題をより発展的に考察する力を評価するねらいだという。

※新テストモデル問題などは、大学入試センターホームページに掲載されている。

春の進学イベント

※申し込みは、各大学のHPから手続きをしてください

筑波大学 春の進学説明会・模擬講義

場所:筑波大学東京キャンパス文京校舎(東京メトロ・丸の内線「茗荷谷」下車徒歩3分)

日時:3月27日(火)～29日(木)9:30～17:00(最終日のみ15:00まで)

○34の模擬講義と大学の概要説明(事前申し込みが必要)

■日時・概要

◆3月27日(火)9:30～17:00

大学概要説明、社会学類、生命環境学群(生物学類、生物資源学類、地球学類)、情報学群(情報科学類、情報メディア創成学類、知識情報・図書館学類)、医学類、看護学類、医療科学類、個別相談、資料配付など

◆3月28日(水)9:30～17:00

大学概要説明、人文・文化学群(人文学類、比較文化学類、日本語・日本文化学類)、人間学群(教育学類、心理学類、障害科学類)、理工学群理学系(数学類、物理学類、化学類)、応用理工学類、工学システム学類、社会工学類、個別相談、資料配付など

◆3月29日(木)9:30～15:00

大学概要説明、国際総合学類、体育専門学群、芸術専門学群、個別相談、資料配付、公開シンポジウムなど

東北大学 東北大学 in 東京 工学部編

場所:学術総合センター2階ホール(東京メトロ「神保町」、「竹橋」各駅下車徒歩4分)

日時:3月26日(月)9:20～16:50(9:00開場)

○航空宇宙、人工知能(AI)、バイオ工学、材料科学、建築工学の分野から、世界的に著名な5名の教授による特別講義(要申込)

■時程(個別の進学説明・相談会も同時開催、入試センター教員が、入試制度等について説明します)

9:20 プレリユード:滝澤工学研究科長からのメッセージ

9:30 言葉がわかる人工知能をつくるには ～言葉の不思議と自然言語処理の最前線～ 情報科学研究科 乾 健太郎 教授

10:55 木造建築が未来の街を変える ～都市に"森"を創る～ 工学研究科 前田 匡樹 教授

12:10～12:45 昼休み

12:45 月惑星探査ロボットの研究開発 工学研究科 教授 吉田 和哉

14:10 燃料電池・全固体電池って何がすごい? ～未来を変える材料科学の世界～ 工学研究科 高村 仁 教授

15:35 創業エンジニアリング:バイオ×化学×工学でがんに立ち向かう 工学研究科 梅津 光央 教授